

4-6

「施設内デイサービス」による穏やかな時間の創造

寄り添う介護で生活リズムを整える。

寄り添う介護

介護事故防止

特別養護老人ホーム 白楽荘

介護福祉士 森 孝生

介護福祉士 斉田 康子

東京都多摩市山王下1-18-2

TEL 042-376-1811

E-mail shibata@rakuyuukai.com

FAX 042-371-1562

URL <http://www.rakuyuukai.com>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人楽友会が母体である特別養護老人ホーム白楽荘は昭和49年7月に開設。定員150名、短期入所10名の大規模な高齢者介護福祉施設です。多摩の景色を一望できる高台にあり、お部屋の窓からは多摩一面が広がります。

〈取り組んだ課題〉

重度の認知症利用者が増え、ワンフロア50名という当施設においては対応が困難になり、職員が目が届かなくなってきた。またそれに伴い、利用者も落ち着かない状態になったり、また昼夜逆転の利用者も増え、介護事故（転倒、転落）も同一の利用者が頻繁に起こす状態がみられた。平成16年11月よりその状態を緩和するために施設の一角を使用し、「施設内デイサービス（名称：ゆとり）」を設置し、少人数の利用者を選び、担当職員を配置し、一日のうちの数時間をそこで過ごしていただくようにした。よって、課題として

- 同一利用者の介護事故の防止
- 昼夜逆転の防止
- 利用者に寄り添い、介護することの有効性の検証
「利用者はどう変わったのか」を立て取組みを開始した。

〈具体的な取り組み〉

- 場所の確保と室内環境の整備
 - ・6Fクラブ室を使用。
 - ・音響機器の設置、ソファの購入。
- 実施計画の作成
週2回（月曜日、木曜日）を活動日とし、時間は午前10時30分から正午まで、午後3時30分から5時までとする。
- 職員配置
 - ・責任者と係りを各フロア（5F、6F、7F）から選出し、運営、手順を作成する。
- 利用者のアセスメントを実施
アセスメントシートを改善し（名称ADL表）、あらたにアセスメントをし直し、「施設内デイサービス」が必要な人をピックアップ。（10名前後）

○活動記録の実施

- ケアプランに反映させ、モニタリングを行い、個別に改善できること、「施設内デイサービス」の運営方法の改善点を出す。

〈活動の成果と評価〉

- 再アセスメントをした結果、利用者の現状を正確に把握することができ、「施設内デイサービス」利用に関してもスムーズに行うことができた。
- 職員が絶えず、そばにすることで、利用者も落ち着きを取り戻し、温かな表情が見られるようになった。
- 同一利用者による介護事故（転倒、転落）も未然に防ぐことができ、回数、件数ともに減らすことができた。
- 昼夜逆転傾向の利用者にも参加されたが、日中を起きている生活リズムにしたところ、昼夜逆転の回数が減った。

以上のことから

ユニット化が進む現状において当施設のように従来型の施設ではユニットに移行することが困難である。ただし、このような形でのケアができる環境を整え、その人のアセスメントが正確にでき、把握ができれば、プログラムなどの創意工夫により、十分に対応できることがわかった。また職員配置に関しても、広いフロアで事故の予見可能性の高い利用者に対応するよりも少人数でひとつの場所でケアできることで落ち着いて対応ができ、一方「施設内デイサービス」に参加していない他の利用者に対しても十分なケアが行き届くことがわかり、今後も継続していくこととなった。

〈活動の成果と評価〉

- 予定していた職員配置が都合で配置できない場合の対応を考える。
- ボランティアの活用を考えていく。